

平成22年度三次市公共事業評価監視委員会【議事要旨】

開催日時 平成22年12月1日(水) 13時30分開会 17時30分閉会

開催場所 三次市役所 東館4階会議室

出席委員 若井具宜委員長，高井広行委員，山下俊明委員，平田百合子委員，
松岡真理子委員

市出席者 村井市長

建設部 藤井部長，平岡次長，増田部付課長，伊藤主任

地域振興部 山本企画調整課長，宮脇主任

現地視察

- ・道路事業(市道81号線，市道85号線)高質空間形成施設：三次町
- ・道路事業(都市計画道路上原願万地線)：三次町
- ・道路事業(都市計画道路栗屋南畑敷線 駅北広場)：十日市
- ・高次都市施設事業(地域交流センター)：十日市

議事(1) 都市再生整備計画事業の概要説明

議事(2) 「三次市中心市街地地区」の事業計画説明

説明を受け，後ほど審議の中で，質問等をする。

議事(3) 事後評価手続き等にかかる審議

委員 確認ですが，JRの駅自体の建替えの話はどうなるのか。

三次市 2期事業の中に駅舎整備が含まれています。移転補償で新設する予定ですが，内容については，現在JRと協議中です。

委員 中心市街の定義はどう考えているのか。三次・十日市・願万地と捉えていい
のか。かなり広い範囲をとっているようなイメージがある。

三次市 はい。赤で囲まれている地域が中心市街地です。十日市の複合交通センター
を中心に，歴史的街並みである三次町との連携が課題と考えていたので，広
い範囲を捉えることになりました。

委員 評価のための指標の意味を聞きたい。

まず，指標1イベントの来場者数だが，このイベント来場者数は直接事業に
関連して増えたのか。指標とまちづくりの関連性がよくわからない。
説得力がないのではないか。

指標2公共交通の利用者数については，「目標を達成できなかった」となって
いるが，一方で「減少を食い止めている」の記述もある。がんばっているの
なら，評価も「 」ではなく，「 」でもよいのではないか。

指標3 商品販売額の減少率については、実際の経済活動が深く影響している。実際の事業効果で下げ止まっているのか。上がったとしても事業効果か、経済効果かはかるのは難しいのではないか。

指標4 住民満足度指数は、どこの100人に聞いているのか。

全体に記述部分の記述の仕方に工夫が必要だ。事業評価に関わることをきちんと書けばいいのではないか。指標の書き方も書きにくいのは、わかるのだが、よけいなことを書かず、関係のあることだけをきちんと書けばいいのではないか。

三次市 指標1 イベントの来場者数は、ご指摘の通り、事業との相関関係はわかりにくい部分もあると思われます。しかしながら、都市再生整備計画の評価は数値目標をおいて評価するという手法になっております。例えば三次町の歴史的街並み整備は、整備後、各種イベントによる集客を見込んで整備しているということもあり、当初目標として設定しています。

委員 指標としては、難しい指標だと思う。イベント関係者ががんばれば、参加人数は増える。これは事業の効果とは関係ないのではないか。

三次市 市としては、ハードとソフトをからめたまちづくりを考えています。例えばイベント関係者ががんばる機運を高める呼び水になったという所見をもっています。

委員 それなら記述の仕方を変えたほうがいい。今の記述の仕方「三次まちなみアートギャラリーも開催されるようになった」とであると、アートギャラリーで人が来たような感じを受ける。例えば「小路を整備することにより、より充実したアートギャラリーになった」というような書き方にした方がいいのではないか。

委員 ここに書いてあるイベントは、今回の整備箇所と関係のある場所で行われていないものもある。本当に事業効果が反映したことになるのか。この評価で判断するのは難しいのではないか。

委員 完成後なら評価できるのだが、確かに現時点では難しい面もある。当該地域に住むもの実感として、土日にはボランティアガイドの方が20人程度の観光客を連れて歩いているなど変化はある。ただこれは石畳を整備した成果であって、この度の都市再生整備事業の整備箇所の整備の成果ではないと思う。

委員 とはいえ、石畳の成果に加えて、この度の整備箇所も機運を高める役割を果たしており、無関係ではない。関連性を出したような書き方が必要である。

委員 目標達成度、 \times の判断はどうか。先ほどの指摘のように、がんばっても経済が冷え込んでどうにもならないこともある。表にとしてあり、そこだけ見たら、効果がないように見られる。数字とすれば かもしれない

が、努力したことを記述してもいいのではないか。

委員 その他特記事項に、小さなことでも努力したことを書いた方がいい。

委員 まだまだ他に効果発現の要因はあるはずである。その他の数値指標や参考記述をもっとしたほうがいい。

委員 他の地域でこのような評価をまとめた例はあるのか。この指標の数値だけで、評価に耐えるのかという疑問もある。数値目標は変えられないのか。

三次市 他の市町村でも、国土交通省のマニュアルに沿って同様に評価は行われています。指標は従前値との比較ということで、当初設定したのを使い、当初設定した指標以外は、その他の数値指標に記載することになっています。各委員のご指摘の通り、要因を分析して書き加えます。

委員 指標4の満足度を計った約100人は、どこの地域に配ったのか。偏りはなかったのか。

三次市 アンケートは、三次町、十日市の住民を対象にコミュニティーセンターに置いたり、市役所に置いたりして行いました。人口に応じて、三次町に50部、十日市に100部を配布し、回収は、三次町44部、十日市68部、無効4部の112部を回収しました。

委員 回答した人は、整備箇所を理解して回答しているのか。漠然としたものではないのか。

三次市 整備前、整備後の写真を入れるなど、わかりやすいように工夫しました。

委員 住民満足度指数の点数のつけ方がおかしいのではないか。

順序尺度は定性的な意味しかない。5、4の違いは何か。点数化は難しいと思う。しかも、住みにくい場合も2や1のプラスの点がつくが、実際にはマイナスになるべきである。

委員 追加で確認したいが、空き店舗調査は、どの範囲を対象にした調査なのか。

三次市 市の商工観光課に商店街ごとの調査結果があります。その中から当該区域の商店街を抽出しています。

委員 これも記述の中に「事業対象区域の空き店舗調査」というように「事業対象区域」という言葉を入れて、事業と評価を結びつけるようにした方がいい。

三次市 了解しました。

委員 指標4で、アンケートのポイントを使わずに、%をつかったらどうか。パーセントでも、44%から49%と5ポイントアップになっている。この数字の方が説得力がある。

三次市 ここでは、当初設定した目標値を使うことになっているので、他の場所に記載するようにいたします。

委員 108名しかアンケートしていないが、今後とるのか。

三次市 フォローアップで行います。

【 結論 】

- ・方法書，成果の評価，実施過程の評価，効果発言要因の整理，事後評価原案の公表の妥当性，その他議事3全体として，これまでの各委員の意見をまとめて，追加で書き込みすることとして，事後評価が適正に実施されていることを確認したとする。

議事(4) 今後のまちづくりについての審議

委員長 今後のまちづくり方策の作成については，いかがか。

委員 15頁の記述は，文章が漠然としている。もう少し細かい点での記述が必要ではないか。例えばB欄の記述では，どのようなところが，ユニバーサルなのか。三次らしさを反映した具体的な記述が欲しい。

三次市 ご指摘を参考に追記します。

委員 ユニバーサルも平易な表現にした方がいいのではないか。

三次市 了解しました。

委員 関連質問になるが，バスセンターは駅の中に入るのか。

三次市 市としては，駅とバスセンターの一体化を図るようにバス事業者と協議を進めています。引き続き次期計画の中で実現を目指していきます。

委員 公共交通の利用者数のアップのためにも，一体化は必要である。

委員 バスセンターが一体化することは，まちづくりの目標から見ても，極めて重要なことである。

委員長 続いてフォローアップ計画については，いかがか。またその他，ご意見があれば発言をお願いしたい。

委員 指標1のイベントは，現在の5つに固執せず，ふやしてもいいのではないか。総数をみればいかがか。

指標2の公共交通の利用者数は，社会情勢によって変わるのは当然である。

社会全体の動向との比較を評価してもいいのではないか。

指標3も経済状況を加味してもいいのではないか。加味して効果を計る方が実質的にあっているのではないか。

委員 空き店舗の数を指標にとってあるが，この機会に商店街ごとの営業店舗数を調べたらどうか。空き店舗を壊して駐車場にした場合でも減として算定されてしまう。本来のにぎわい創出につながってない場合もある。

委員 添付様式6についても，もっと書き込んだ方がいい。よかったことは積極的に記述していった方がいいのではないか。

委員 今回の事業（ハード）だけでは活性化にはつながらない。活性化につなげていくための次の展開が必要である。今回の整備をいかすためのフォローアップが必要ではないか。例えば，観光に来て昼食やお土産を買う店がない。ニーズがあるのに実態がないことに対して，何か具体的な支援が出来ないか。

三次市 例えば，上原願万地線の沿道地区については，橋梁完成後に商業系土地利用が進むと見込まれることから，平成21年に近隣商業地域へ用途地域の変更を行い，沿道型のまちづくりを行っていくこととしています。チャレンジショップ支援事業なども関係機関と連携して進めていきたいと考えます。

委員 特に若者の流出をくいとめるようなまちづくりが政策的に必要と考える。

三次市 今後のまちづくり方策に関するその他の意見の中に加えたいと思います。

【 結論 】

- ・今後のまちづくり方策の作成，フォローアップ，その他，議事4全般について，委員の意見を取り入れた記述にすることとして，今後のまちづくり方策は妥当であるとする。

(終了 17 : 30)